

科目名称	薬理学	学年学期	単位数	時間数
		1 学年後期	1	30
担当教員	田中 守	授業に関わる 実務経験	☒ 有（薬剤師） ☐ 無	

【1】授業概要

薬理学の基礎知識と薬物療法について学び、薬物療法を受ける患者の安全対策を学ぶ。

【2】学習目標

1. 薬理学の基礎知識を理解し、医薬品の健康障害について理解できる。
2. 健康障害に対する薬物療法の作用機序、人体への影響について理解できる。
3. 薬物の管理、看護者の責任について理解できる。

【3】第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☒ 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
- ☒ 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
- ☐ 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
- ☒ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☒ 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	薬理学総論（1）	講義・小テスト
2	薬理学総論（2）	講義・小テスト
3	薬理学総論（3）	講義・小テスト
4	抗感染薬	講義・小テスト
5	がん治療薬、免疫治療薬	講義・小テスト
6	抗アレルギー薬、抗炎症薬 他	講義・小テスト
7	末梢での神経活動に作用する薬物	講義・小テスト
8	中枢神経系に作用する薬(1)	講義・小テスト
9	中枢神経系に作用する薬(2)	講義・小テスト
10	循環器系に作用する薬物	講義・小テスト
11	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義・小テスト
12	物質代謝に作用する薬物	講義・小テスト
13	皮膚科用薬・眼科用薬	講義・小テスト
14	救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬救急に用いられる薬物	講義・小テスト
15	筆記試験・まとめ	

【5】評価方法

毎回の講義中に行う小テストの結果（1点×14回：14点）は、最終評価テスト（86点）に加点して総合評価とする。（小テストは6割以上の正解で1点を加点する）

総合評価で60点に達しなかったものは再試験とする。

【6】教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院

【7】参考書

【8】受講生へのメッセージ

臨床現場で看護に必要な事例をまじえながら、薬物の特徴、薬理作用、薬物が人体に与える影響など薬の知識について教授する。薬理学を学ぶことによって、与薬などを確認する行為が重要かを理解できる。